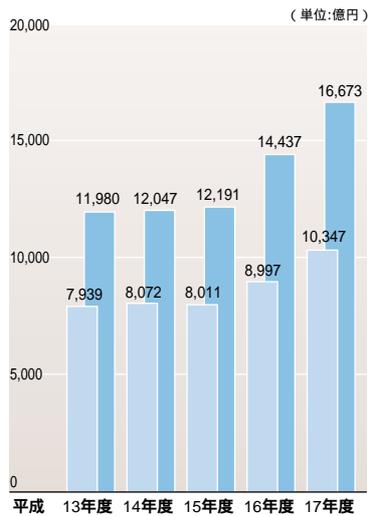


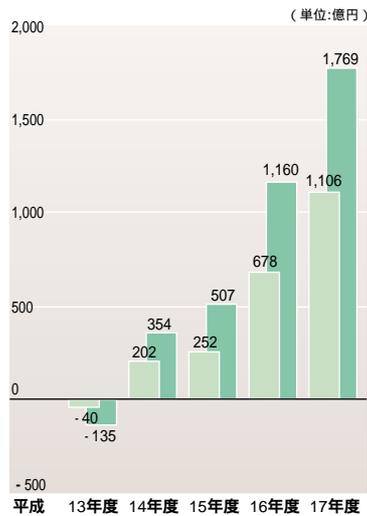
# Financial Report 業績のご報告

## 財務ハイライト

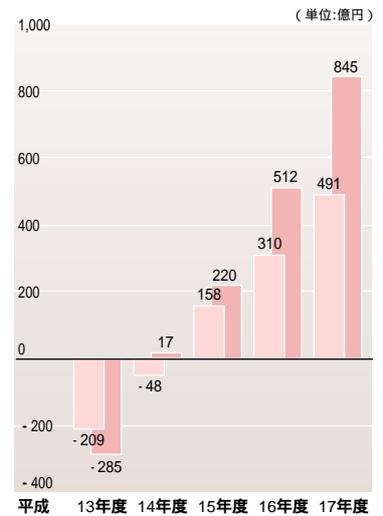
売上高



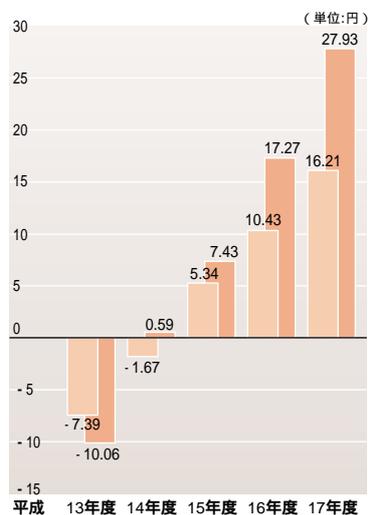
経常利益



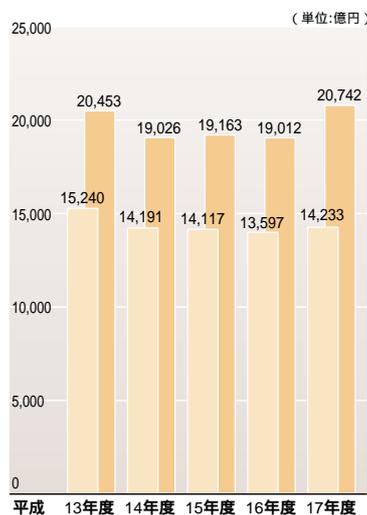
当期純利益



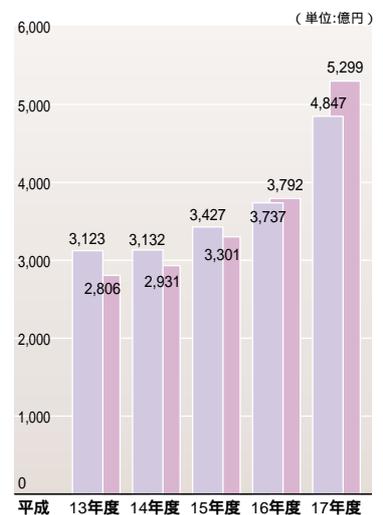
1株当たり当期純利益



総資産



純資産



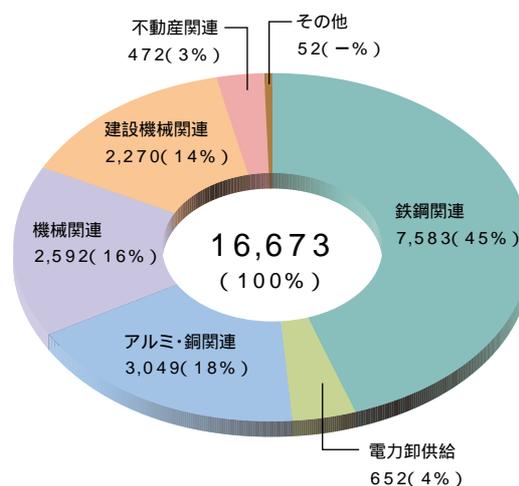
## 当期の概況

当期のわが国経済は、企業収益が改善を続ける中、民間設備投資が引き続き増加するとともに、個人消費も底堅く推移し、米国・アジア経済の好調により輸出も拡大を続けたことなどから、順調に回復してまいりました。

当期の連結業績は、売上高は前期に比べ2,235億円増収の1兆6,673億円、営業利益は538億円増益の2,203億円、経常利益は609億円増益の1,769億円となりました。また、税引き後の当期純利益は、不動産事業の分割に関連する損失、環境対策費用、および加古川製鉄所で発生した火災事故に伴う損失を特別損失として計上したことなどから、845億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ1,350億円増収の1兆347億円、営業利益は365億円増益の1,423億円、経常利益は427億円増益の1,106億円となりました。また、税引き後の当期純利益は491億円となりました。

セグメント別売上高(平成17年度) (単位:億円)



(注) その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

## 鉄鋼関連事業

国内市場は、造船、自動車、産業機械など製造業向けを中心に、堅調に推移しました。一方、海外市場では中国等での生産能力拡大により、汎用品分野で需給バランスが悪化し、市況が軟化しました。こうした状況の中、価格重視の方針で臨んだ結果、鋼材出荷数量は、輸出向けが減少し、全体でも前期を下回りました。一方、鋼材販売価格は、原材料価格の高騰や、当社が得意とする高級品の堅調な需要を受け、内外とも改善が進みました。また、鑄鍛鋼品は、世界的な船舶需要の拡大を受け、船用向けを中心に販売数量が増加しました。更に、チタン製品も需要の拡大を背景に、

売上高は前期を上回りました。

溶接材料については、国内は造船、自動車、建設機械向けなどを中心に好調を維持し、海外も、造船、自動車、エネルギー関連プロジェクト向けが堅調に推移しました。

この結果、売上高は前期比20%増の7,583億円、営業利益は前期比390億円増益の1,309億円となりました。

今後の課題...鉄鋼関連では、堅調な需要が続くと見込まれる造船、自動車向けを中心に「オンリーワン製品」を拡販・創出し、プレゼンス向上を図ります。また、高炉改修を始めとした設備投資の投資効果を最

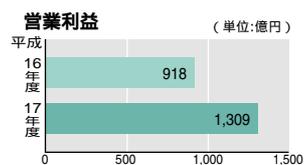
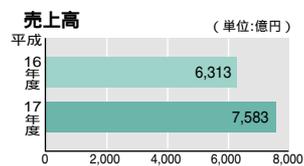
大限発揮できるよう円滑な立ち上げに努めます。また、原料の安定調達の確保、技能継承の円滑な推進など、事業基盤の強化に取り組みます。

溶接材料分野では、足下の旺盛な需要の確実な取り込み、海外における現地拠点の拡充、拠点網を活かした拡販活動などに注力し、世界のリーディングカンパニーを目指します。



転炉

### 鉄鋼関連事業



## 電力卸供給事業

現在、神鋼神戸発電所では1号機、2号機あわせて最大出力140万キロワットの電力供給体制が整っております。売上高は前期比11%増の652億円となり、営業利益は前期並みの195億円となりました。

今後の課題...設備保全の更なる強化や操業技術の蓄積を図り、安定操業の継続と収益の確保に努めます。



神鋼神戸発電所

## アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品では、アルミボルト缶の採用増により国内向け缶材が堅調であり、自動車向けパネル材や磁気ディスク用アルミ基板も好調に推移しました。一方、輸出では、価格改善を優先し、缶材、印刷版、エアコン用フィン材などの受注を一部見送ったため、全体では前期を下回りました。

銅板条では、半導体リードフレーム向けが調整局面から脱却、自動車電装部品用端子コネクタ向けも引き続き好調に推移しました。一方、

銅管では前年の猛暑影響の反動に加え輸出の減少があり、銅圧延品全体では、前期を下回りました。

アルミ鋳鍛造品の売上高は、半導体製造装置向けなどの増加により前期を上回りました。

全体の販売量は減少したものの、地金価格高騰の影響等により、売上高は前期比8%増の3,049億円、営業利益は前期比64億円増益の233億円となりました。

今後の課題...原油価格の高騰

などのコストアップも懸念されることから、燃料転換、省エネ化などのコスト削減を徹底するとともに、今後も拡大が見込まれる自動車・IT関連分野向けの拡販を更に強化するなど、収益の拡大に努めてまいります。



アルミ缶

## 機械関連事業

国内の受注は、好調な民間設備投資を背景に、圧縮機、圧延機械などが堅調に推移したものの、環境ビジネスの競争激化による低迷に加え、橋梁事業からの撤退の影響もあり前期に比べ微減となりました。海外向け受注は、中東やアジアなどの石油・エネルギー業界の活発な設備投資を背景に、圧縮機、樹脂機械、LNG機器および石油精製用の高压容器を中心に堅調に推移したものの、直

接還元製鉄プラントの受注が前年度に集中したこともあり、減少しました。

この結果、受注高は前期比13%減の2,394億円、当期末の受注残高は2,467億円となりました。

また、売上高は、前期比14%増の2,592億円となり、営業利益は103億円となりました。

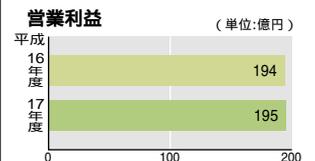
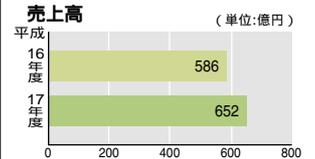
今後の課題...好調な設備投資を背景に、最大の受注量確保に努めるとともに、商品力強化やコストダウ

ン等により収益の最大化を目指します。また、直接還元製鉄プラントについては、受注活動に全力をあげるとともに、将来の収益源の一つとして育成してまいります。

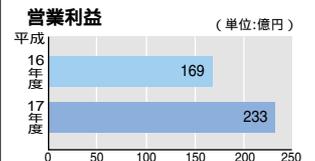
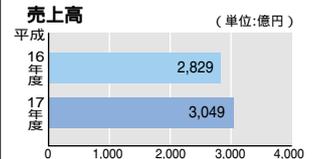


高速2段スクリュウ冷凍機

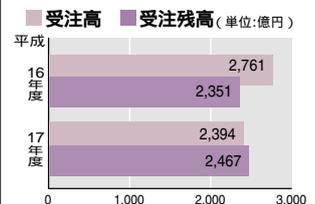
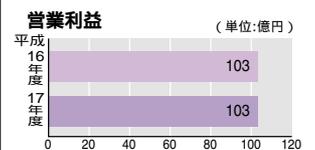
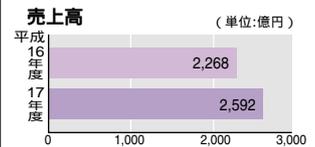
### 電力卸供給事業



### アルミ・銅関連事業



### 機械関連事業



## 建設機械関連事業

油圧ショベルの国内市場は、公共工事の減少傾向が続いているものの、好調な民間設備投資や、中国など海外市場への中古車輸出による国内ストック台数の減少等を背景とした更新需要に支えられ、堅調に推移しました。また、海外においても、欧米市場が拡大基調を維持していることに加え、低迷していた中国市場においても需要の回復傾向が鮮明になったことなどから、全体としては堅調に推移しました。更に、クレーン事業

も好調に推移したことから、売上高は前期比10%増の2,270億円となり、営業利益は前期に比べ16億円増益の88億円となりました。

今後の課題...需要が堅調に推移する中、販売台数の更なる拡大を目指すとともに、事業環境の変化に対する適応力の強化を図るべく、コスト競争力の強化、カスタマーサポート体制の強化を通じたブラ



油圧ショベル

## 不動産関連事業

関西地区を中心としたマンションの竣工・引渡しが集中したことなどから、売上高は前期比45%増の472億円となり、営業利益は前期に比べ20億円増益の51億円となりました。

今後の課題...賃貸・ビルマネジメント事業などの安定収益分野の拡充に加え、分譲事業を安定的に推進することにより、事業基盤の強化に取り組みます。

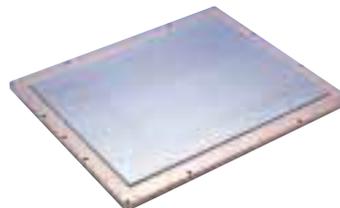


ジークレフ三鷹

## 電子材料・その他の事業

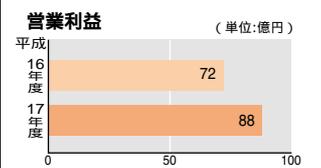
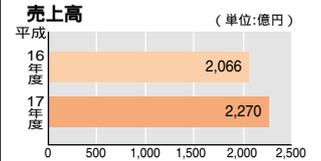
液晶ディスプレイ用ターゲット材ならびにエレクトロニクス関連の試験・分析需要を着実に取り込んだことなどから、売上高は前期比13%増の611億円となり、営業利益は前期に比べ33億円増益の174億円となりました。

今後の課題...液晶ディスプレイ用ターゲット材の需要増を確実に取り込むとともに、生産性の向上、コストダウンなどにより、引き続き最大の収益確保を図ります。加えて、次世代光ディスク用ターゲット材の早期実用化と市場開拓に積極的に取り組みます。

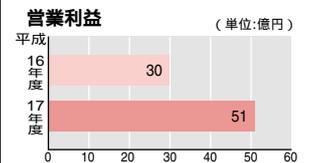
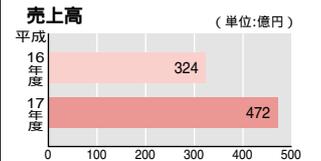


ターゲット材

### 建設機械関連事業



### 不動産関連事業



### 電子材料・その他の事業

